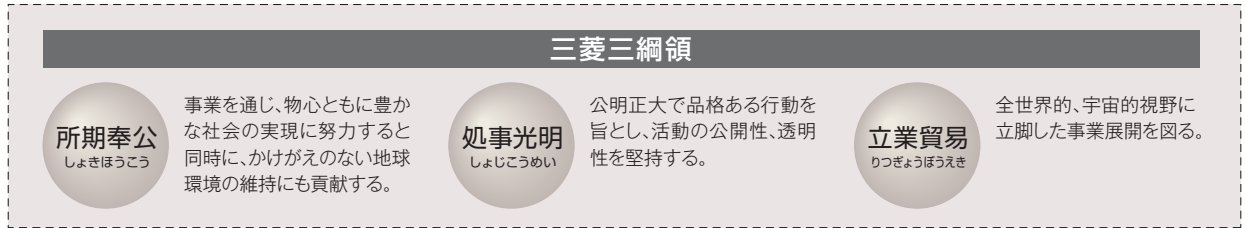


CSRに対する考え方

三菱地所グループにとってのCSRとは、「基本使命」である「住み・働き・憩う方々に満足いただける、地球環境にも配慮した魅力あふれるまちづくりを通じて、真に価値ある社会の実現に貢献」することであると考えています。そのために、「行動憲章」の柱である「誠実な行動」「お客さまからの信頼」「活力のある職場」の3つを実践し、ステークホルダーと対話しながら、社会に貢献する企業グループをめざしています。



三菱地所グループ基本使命

私たちはまちづくりを通じて社会に貢献します。

私たちは、住み・働き・憩う方々に満足いただける、地球環境にも配慮した魅力あふれるまちづくりを通じて、真に価値ある社会の実現に貢献します。

三菱地所グループ行動憲章

私たちは、基本使命を実践するために以下のとおり宣言し、実行します。

1. 私たちは誠実に行動します

法と倫理に基づいて活動し、常に自らの行動を謙虚に振り返り、社会とのコミュニケーションを大切にすることで、公正、透明で信頼を第一とした企業活動を行います。

2. 私たちはお客さまからの信頼を得られるよう努めます

お客さまの立場で考え、安全でより良い商品・サービスを提供するとともに、情報を適切に開示します。

3. 私たちは活力のある職場づくりに努めます

自らの成長をめざし、個々の人権や多様な考え方を尊重し、創造性・専門性を高めながらチームとして総合力を発揮します。

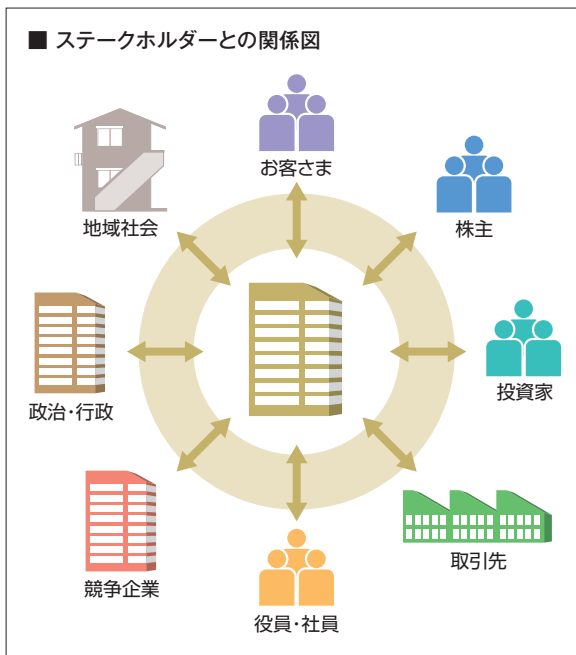
三菱地所グループ行動指針

詳細は [Web http://csr.mec.co.jp/koudousisin.html](http://csr.mec.co.jp/koudousisin.html)を参照

三菱地所グループと ステークホルダーとの関係

三菱地所グループの事業は、お客さま、地域社会、政治・行政や取引先、および役員・社員など、さまざまなステークホルダーとの関わりの中で成立しています。

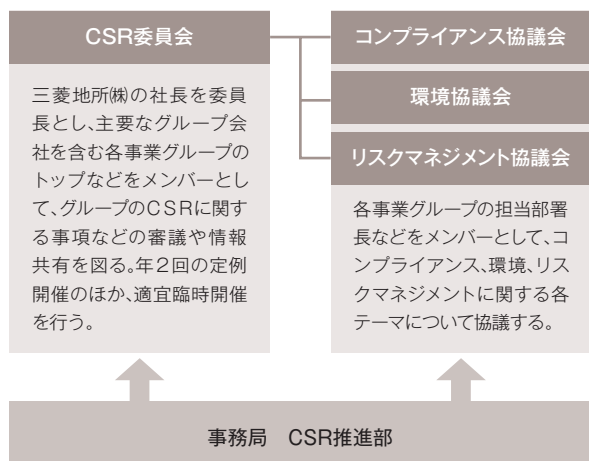
まちづくりという事業活動は、その性格上多くのステークホルダーと関わるものであり、三菱地所グループは、これらステークホルダーの信頼にお応えしながら事業活動を継続的に進めていく責務があります。さまざまな形でステークホルダーと対話し、その声を経営に反映すべく、取り組みを重ねていきます。



CSR推進体制

三菱地所(株)では、CSRに対してより積極的に取り組み、これを推進する体制を整備するため、2005年4月に「CSR推進部」を設置しました。同年9月には三菱地所グループ全体のCSRの推進を図るため、三菱地所(株)の社長を委員長とする「CSR委員会」を設置するとともに、その事前協議機関として「コンプライアンス協議会」「環境協議会」「リスクマネジメント協議会」を設けています。

■ CSR推進体制



2007年度のCSR委員会開催実績

第1回(2007年7月：定例開催)

- ・ 環境管理規程改正について
- ・ CSR活動の現状と課題について (CSR中期目標ほか)
- ・ グループ環境目標策定について
- ・ 社会貢献活動方針(案)について ほか

第2回(2008年1月：定例開催)

- ・ ファンド業務などにおける利益相反などに関する規程の改正について
- ・ 社会貢献活動の基本方針について ほか

第3回(2008年3月：臨時開催)

- ・ CSR委員会規程ほかの改正について

なお、定例開催のCSR委員会については、以下の2名の社外有識者にアドバイザーとして参加いただいています。

高 巖氏 (麗澤大学大学院 国際経済研究科 教授)
江上節子氏 (早稲田大学大学院 公共経営研究科 客員教授)

三菱地所グループの2007年度CSR活動実績と

三菱地所グループとしての2007年度のCSR活動取り組み実績と、それを踏まえた

CSR取り組み項目		2007年度の実績
コーポレート・ガバナンス	コーポレート・ガバナンスの強化	社外取締役を4名とすることによる取締役会の活性化 企業買収防衛策の導入。
	内部統制システムの整備・運用	内部統制システム運用の実行及びモニタリングによ
	リスクマネジメントの強化	グループ各社の潜在的リスク洗い出しと対応。
コンプライアンス	コンプライアンスを優先し続けること	グループコンプライアンスアンケートの実施による 集合形式によるコンプライアンス研修の継続実施。
コーポレートブランド	コーポレートブランドの構築・強化	コーポレートブランドの策定、グループ内外への周
取引先との取り組み	発注行動指針の実践	発注行動指針に基づき、適正な発注を実施すると 「注委員会」にて審議。
情報開示とIR活動	説明責任を果たす姿勢	情報開示規則を適切に運用。アナリスト・投資家の CSR報告書の英文版を作成。
社会貢献活動	グループ全体で取り組む新しい社会貢献	グループ社会貢献活動基本方針の策定。
環境経営の推進	環境経営全般	環境長期ビジョン策定に向けたワーキングを組織し、 エコツェリアを開設し、大丸環境ビジョンを策定。
	地球温暖化対策の推進	省CO ₂ 型都市構造委員会を立ち上げ。コンベ実施を
	循環型社会の形成	ビル事業、住宅事業などの各事業領域において廃
	環境負荷全般の低減	土壌汚染、アスベスト対策などの取り組みを実施。
	環境コミュニケーションの推進	「エコプロダクツ2007」に出展。 住宅の環境をテーマに社外有識者とともにステー
安全と安心のまちづくり	安全・安心への取組推進	ビル安全管理情報の水平展開を継続実施・強化。 事業継続計画(BCP)、緊急事態対応に継続的に取
お客さまの 視点に立ったまちづくり	お客さまの立場に立つこと	住宅事業部門首都圏事業においてアフターサービ マーセンターを設置。
活力のある職場	意欲と能力を発揮できる職場づくり	新たに所属長マネジメント研修を実施。各部門にお
	人権と多様性を尊重した職場づくり	人権研修による啓発活動、育児・介護支援を実施。
	風通しのよい組織であり続けること	中堅・若手社員が事業部門を超えて議論する場とし 設置(各タスクフォースにアドバイザーとして役員1

2008年度の目標

2008年度の取り組みは、以下のとおりです。

	2008年度の取り組み
化、取締役の任期の短縮(2年→1年)。	コーポレート・ガバナンスの強化に向けた継続検討。
る改善を実施。	内部統制システムの整備・運用の改善。財務報告に係る内部統制(J-SOX)の本年度対応。
問題点の把握。	リスク分析シートを活用したグループ全体のリスクマネジメントを開始。 危機発生時の緊急事態対応に係る実践訓練を実施し、実務レベルマニュアルを策定。
知、浸透を実施。アクションプランの策定。	グループコンプライアンスアンケートの結果を受けた対策検討とアンケートの継続実施。 集合形式によるコンプライアンス研修の継続実施。
もに、大規模な工事の発注に際しては「発	引き続き、発注行動指針に基づき、適正な発注を実施。
ニーズを反映した決算説明会の実施。	引き続き、情報開示規則を適切に運用。 アナリスト・投資家のニーズを反映した決算説明会の実施。
検討を実施。環境経営ビジョン骨子を策定。	社内外連携のもと、グループの経営資源を活かした新規活動「(仮称)都市と農山村交流プロジェクト」の実施。
含む屋上緑化の推進。	CO ₂ 削減に向けたテナントとの協力体制づくりの検討。
棄物リサイクルなどの取り組みを実施。	各事業領域における廃棄物最終処分量の削減。 引き続き土壌汚染、アスベスト対策などの取り組みを実施。
クホルダーミーティングを実施。	ステークホルダーミーティングの結果を踏まえた施策を実施するとともに、顧客とのコミュニケーションに取り組む。
り組む。	ビルPM会社と連携した安全管理活動実施、PM会社による各現場業務標準化支援。 外部情報を収集しつつ災害対策全般の拡充を進める。
スを直営化の上、商品企画部内にカスタ	住宅事業グループ地方圏のアフターサービスの直営化を段階的に実施。 各ホテルにおいて顧客満足経営目標を明記。
いて人財育成のための研修を実施。	新中計の方針を踏まえ、人財像の再定義、キャリアパスの検討、制度面の見直しの可能性を検討。人財育成制度ワーキングにより「求められる人財像の明確化」および「人財育成施策」について検討実施中。
障がい者雇用を促進。	人権研修による啓発活動、育児・介護支援を実施。障がい者雇用を促進。
て「クロスセクショナルタスクフォース」を 名が参加)。	「クロスセクショナルタスクフォース」の継続実施とともに、トップによる各職場まわりと意見交換を実施。

三菱地所グループ2007年度CSR活動ハイライト

CSR推進月間を実施

三菱地所(株)では2007年度より、グループ社員を対象に、CSRに関する理解を深め、日々の行動に定着・浸透することを主旨として、毎年10月を「CSR推進月間」と定め、「CSR報告書説明会」「映画『不都合な真実』上映会」「リスク管理講演会」「キラキラっとアートコンクール社内審査会」をはじめとするCSRに関する講演会や参加型イベントなどを集中的に開催しました。この活動は今後も継続して実施していきます。



50P参照



テナントからの評価

2008年5月、「第10回(2007年度)テナントが選んだディベロッパー大賞」において、三菱地所(株)の「新丸の内ビル」が「新人賞」、チェルシージャパン(株)が「10周年記念賞」、(株)イムズが「コンセプト賞」、(株)サンシャインシティが「イノベート賞」を受賞しました。

新丸ビル10階に環境戦略拠点「エコツェリア」を開設

2007年5月、三菱地所(株)は、丸の内のまちづくりにおける環境共生の取り組みをエリア全体でハード・ソフトの両面から実施、展開するための環境戦略拠点「エコツェリア」を新丸ビル10階に開設しました。同施設の運営は有限責任中間法人「大丸有環境共生型まちづくり推進協会」に委託しており、丸の内エリアが世界に向けて「環境共生型まちづくり」のモデルとなることをめざしています。



38P参照



自然エネルギーの導入促進

三菱地所(株)では、自然エネルギー利用促進の一環として従来よりグリーン電力証書を導入していますが、横浜市が運営する「横浜市風力発電事業」にも新たに参加し、2007年度の発電実績より割当を受けています。

マンションに新しいセキュリティシステムを導入

49P参照

2008年1月、三菱地所(株)と藤和不動産(株)は、お客さまの安全と安心を守るため、マンションの新セキュリティシステム「LIFE EYE'S」を開発し、2008年春より首都圏エリアの物件に導入しています。

「キラキラっとアートコンクール」表彰式を開催

2002年から毎年開催している障がいのある子どもたちの絵画コンクール第6回「キラキラっとアートコンクール」の2007年度優秀作品受賞者をお招きし、2008年2月に丸ビルホールにおいて初めて表彰式を開催しました。

空気調和・衛生工学会賞ほか各賞を受賞

(株)三菱地所設計が設計監理業務を担当し、2004年に竣工した「明治安田生命ビル」を含む街区全体は、2007年7月に第48回BCS賞(建築業協会賞)「特別賞」を、2008年5月に第46回空気調和・衛生工学会賞「技術賞(建築設備部門)」をそれぞれ受賞しました。BCS賞では歴史的建造物と現代的なオフィスを共存させ、新旧のつながりの中に新しい魅力的な空間を生み出したことが評価されました。



「2008ビルマネ レディース デーフォーラム」を開催

2008年3月、三菱地所ビルマネジメント(株)では、女性社員の提案により、働くことの意義やありたい自分を再認識し、自身の価値観からライフキャリアデザインを考えることをテーマとしたフォーラムを丸ビルホールにて開催しました。



58P参照

社会貢献新規活動「(仮称)都市と農山村交流プロジェクト」を始動

三菱地所(株)では、グループも含めた役職員参加のもと、東京丸の内と農山村エリアとを提携し、さまざまな交流を通じて、双方が心豊かで暮らしやすい社会の実現をめざす活動を2008年度から進めています。2008年8月には山梨県北杜市須玉町増富地区で親子ツアーを実施し、57名の社員や家族が、地域の方と一緒に農作業体験などを行いました。



「DJSI」に8年連続して選定

2007年9月、三菱地所(株)は、Dow Jones Sustainability Index (DJSI) に8年連続して選定されました。米国Dow Jones社は、世界26カ国2,500社の優良企業から持続的成長が見込まれる企業を選定し、インデックスとして公表しています。



「FTSE4Good Global Index」に7年連続して選定

2008年3月、三菱地所(株)は英国FTSE社から「FTSE4 Good Global Index」の構成銘柄として7年連続して選定されました。「FTSE4Good」は、企業責任基準を満たす企業を選定することを目的とし、CSRの世界的な投資格付指数として高い評価を集めています。



32P参照

